

2021 年度の事業計画書

2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人茨城 NPO センター・コモンズ

コロナ禍が日常、そして世界を大きく変える中で、新たな事業年度を迎えました。コモンズの水戸の拠点は、ひきこもりがちな若者と生活困窮な状況にある方々、常総の拠点は外国籍の住民と子どもたち、そして災害被災者対象の事業にここ数年取り組んできました。

コロナ禍で人が集う機会が極端に減り、代わりに増えたのがオンラインでのリモート会議です。子どもの学習支援もオンラインであれば居住地に関係なく活動に参加できます。翻訳ソフトを活用することで、言葉の壁も以前より乗り越えやすくなりました。このようにコロナ禍は、生活や仕事だけでなく、市民活動のスタイルをも変えてきています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、変異株の増大により今後も予断を許さない状況が続きます。医療や福祉の現場にかかる負担は限界に近づいています。このような外出や交流が制限される中でも、近い将来発生する災害にも備えなければなりません。コロナ禍でもできることは何なのかを考えながら活動を続けていくことが必要だと思います。

やや長期的な視点でコモンズの方向性を再確認したいと思います。この数年でコモンズの事業規模は拡大していますが、その要因の一つが茨城県からの受託事業の増大です。水戸では、子ども食堂関連と生活困窮者支援の事業を受託し、常総では教育委員会から外国ルーツの子どもがいる学校への支援に関する事業を受託しています。常総の学習支援事業は 5 年くらい民間資金で自主的に行ってきた事業に公費がつき、教育委員会や学校との連携がしやすくなりました。水戸の事業は県が実施したり、企画したものを受けたかたちです。

コモンズは NPO 同士の連携促進や支援者と NPO を仲介する中間支援組織として 1998 年に設立されましたが、近年は直に対人支援を行う事業が増えてきました。ただ、コモンズだけで県域の多種多様なニーズに応えることはできませんし、対人支援を拡大したり、長く継続することは本来の姿とも異なります。

困難を抱えた人のニーズに直に応えるだけでなく、どのような支援の体制が学校なり福祉機関、地域にあると良いのかを考えて具体化したり、日々の相談対応で培った支援のノウハウを地域の関係団体に示しながら担い手を増やすことも今後は必要です。常総の拠点は就学に関する支援体制づくりと多文化ソーシャルワークの手法を広める活動に今後取り組んできます。水戸を中心に行っている生活困窮者支援は、行政だけでなく、各地の対人支援 NPO や社会福祉協議会などの連携を深めていきます。

オンライン会議は移動しなくて良いので便利な面もありますが、どうしても一方的な情報発信になりがちです。人的ネットワークとは時間と空間を共有して、対話や協働をする中でこそ深めることができます。コモンズが中間支援組織としての機能を高めていくために、どのように人のつながり、団体間のつながりを深めていけるか、そのことを役職員がこびっと（しっかり）意識して取り組むことが重要になると考えています。

会員の皆様におかれましては、気になることや必要と思われることを発信していただきたいと思います。共に考え、討議し、今ないものをつくるという市民活動の原点を忘れず、活動していきましょう。

認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ
代表理事 横田 能洋

部門名	セーフティネットのインキュベーション事業（グッジョブセンターみと）
活動方針	・ ひきこもりがちな人たちの居場所となり、相談や仕事の体験を通して、就労などの社会参加を支援します。そのため、引き続き企業・団体の協力を得て、ジョブトレーナーと一緒に就労体験を進めるとともに、新たな体験先の確保に努めます。 ・ 市町村などの関係機関などと連携しながら、ひきこもり者の発見（掘り起し）とセンターの周知に努めるとともに、茨城県の「ひきこもり居場所づくり普及推進事業」の受託を目指します。 ・ アパートの入居や更新の時に必要になる「緊急連絡先」がなくて、賃貸契約ができない人のための「緊急連絡サービス」の周知に努めます。 ・ 発達障害支援のための SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）手法によるグループ訓練を行います。 ・ ひきこもりがちな方がいる家族の会（てふてふの会）の活動支援に努めます。（2017 年 10 月発足） ・ ひきこもりがちな女子の会（コスモス girls）の活動の支援に努めます。（2019 年 10 月発足） ・ グッジョブ利用者と一緒に運営する、グッジョブ食堂の運営を目指します。
新規／拡充／継続	継続
事業名	グッジョブセンターみと
取り組む地域の課題や社会的背景	仕事のブランクや経験不足などによる不安から、すぐに働くことが困難と思っているニートやひきこもりがちな若者が、地域の中に多数埋もれています。しかしこれまで、ニートやひきこもりは本人や家族の問題として十分な支援制度がありませんでした。コモンズでは「ひきこもりは家族の問題ではない、社会の未熟さが原因」と考え、「地域で、地域の人の手による、ひきこもりなどの問題を抱えた人の支援ができる仕組み」を提案してきましたが、引き続き「地域で地域の人の手によるひきこもり支援」の広がりを目指します。 グッジョブセンターみとは、居場所や就労体験の場として、就労困難な若者を地域の働き手に変えるための事業に引き続き取り組んでいきます。
対 象	ニートやひきこもりがちな若者、生活困窮者、障がいを持つ方、居場所がない方など
事業内容	① 居場所の運営：大工町事務所の共用スペースにおいて、毎週水曜日 9:00～17:00 に開設します。 ② 就労体験：引き続き、印刷作業と荷積み作業（いばらきコープ）、清掃業務（東海村社会福祉協議会）を、ジョブトレーナーと訓練生が一緒になって就労体験を行います。
協力組織	就労体験を受け入れていただく企業・団体、県及び関係市町村
会員の皆さんへ	・ ひきこもり支援などを行っている「グッジョブセンターみと」を、必要と思われる方に教えてください。 ・ 就労体験した方の就労先として受け入れてくださる事業所がありましたら、ご紹介ください。 ・ 就労体験を支える、ジョブトレーナーになってくださる方がおりましたら、お声かけをお願いします。 ・ ひきこもっていたり、ニートの方など、仕事のブランクや経験不足などによる不安を抱えている方が、ハローワークなどを介しての就職活動はかなりハードルが高いと言われています。会員のかたのご近所付き合いなどによる関係性を生かし、地元の事業所に口コミで就職させてくれる事業主おりましたら、ぜひお声かけください。ハローワークを介さず、数名の方が就職をしています。真面目さを評価され、最初は週 1 回から始まり、今はほぼフルタイムになり社会保険に加入した人もいます。

部門名	セーフティネットのインキュベーション事業（茨城県就労準備支援事業及び家計改善支援事業等）
活動方針	生活困窮者（就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方）のもつ多様で複合的な課題を地域若者サポートステーションで培ったノウハウを活かし解きほぐし、公民を問わずさまざまな支援機関と連携しながら解決していきます。対象となる本人の自己選択、自己決定を基本にしつつ、社会に押し出す、引っ張り出すのではなく、足場を一步一步踏み固めながら、その人のペースで進むことに寄り添い、その人が自分らしく自立した生活がおくれることを目指します。
新規／拡充／継続	拡充・継続
事業名	令和３年度茨城県就労準備支援事業及び家計改善支援事業等
取り組む地域の課題や社会的背景	【生活困窮者支援を通じた地域づくり】 これまで制度の狭間で必要な支援が受けられず孤立状態にあった方の掘り起こしを重視すべく、「待ちの姿勢」ではなく、早期に生活困窮者を発見し、課題がより深刻化する前に問題解決を図れるよう自立相談支援機関や行政に対し積極的なアプローチを行い、地域の中で安心して自立した生活をおくることができるよう、本事業の支援を通して地域において支え合いの輪を広げていきます。
対 象	生活困窮者（就労の状況、心身の状況、地域社会との関係性その他の事情により、現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある方）、生活保護受給者
事業内容	・「就労準備支援事業」では、就労に向けた準備としての基礎能力の形成からの支援を、計画的かつ一貫して実施します。具体的には、適切な生活習慣形成のための支援・訓練（日常生活自立訓練）、就労の前段階として必要な社会的能力の習得（社会生活自立訓練）、事業所等での就労体験受け入れ先の確保及び就労体験の実施、一般雇用への就職活動に向けた技法や知識の習得等の支援（就労自立訓練）を実施します。 ・「家計改善支援事業」では、家計収支の均衡が取れていないなど、家計に課題を抱える相談者からの相談に応じ、相談者自身が置かれている家計状況を理解できるように、家計計画表等を作成し家計の「見える化」を図ります。また、「家計再生プラン」等を作成し支援の方向性を提案し、生活の再生に向けて意欲を高めていき、家計の視点から必要な情報提供や専門的な助言等を行い、相談者の家計管理の力を高めていく支援を行います。 ・「アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業」では生活困窮者自立支援制度における自立相談支援機関と連携し、アウトリーチ等の充実、時間外対応やオンライン対応による相談へのアクセス向上等の実施により、社会参加に向けたより丁寧な支援を行います。 ・「就労体験・就労訓練先の開拓・マッチング事業」では、就労に向け一定の準備が必要な、長期間就労していない方（ひきこもり状態にある方等）や、不安定就労を繰り返している方（以下「就労支援準備支援対象者」という。）の状態像に合わせ、就労体験・就労訓練先の丁寧な開拓・マッチングを推進することを目指します。
協力組織	自立相談支援機関及び行政、社会福祉協議会等の民間団体など
会員の皆さんへ	本事業では複合的な課題、制度の狭間、自ら支援を求めることが難しい人を支援につなげ、「支えられる側」が「支える側」にもなり、様々な地域資源とつながり循環し地域づくりにつなげていくプロセスが必要となります。例えば、「入口」からの地域づくりとして、自ら自立相談支援機関に相談できない人も含め、必要とする人に対する支援を届けるため、地域の関係機関が個別訪問して、その潜在的支援ニーズを把握し、把握したニーズを自立相談支援機関に結びつけるプロセスや、「出口」の地域づくりとして、商店街や企業との連携、農業等の人材不足など広域的な地域課題に対してもアプローチが必要です。地域共生社会の実現に向け、今後もしばらくご支援・ご協力をお願い致します。

部門名	セーフティーネットのインキュベーション事業（たすけあいセンター「JUNTOS」）
活動方針	・ 常総市の災害復興支援 ・ 常総市以外の水害被害支援 ・ 生活困窮者や高齢者など生活に課題がある人の支援

事業名	常総市の災害復興支援
新規／拡充／継続	継続拡大
取り組む地域の課題や社会的背景	・ 常総市に置いてまだ、水害による空き家が多いことから改修し新たな被災地の生活・コミュニティ再建拠点が望まれる。 ・ 現在、再建されている「えんがわカフェ」「えんがわハウス」の当初の目的である地域住民の交流拠点となるような工夫が必要。 ・ 常総市での外国籍住民を含めた避難所開設や避難訓練、防災訓練が望まれる。
対 象	常総市民、被災されたことで空き家の活用やコミュニティの再建を求めている方々
事業内容	・ 常総での空き家活用やコミュニティ再建として 6 棟目の空き家改修を行い、「住んでいた町で最後まで共に暮らす」ことを目的に地域でひとり暮らしが困難になってきた高齢者、障がい者、アパート契約が困難な外国籍住民の居住スペースとなるよう改修 ・ 「えんがわカフェ」「えんがわハウス」が地域住民の交流拠点となるよう、えんがわマル者の開催、音楽グループや趣味グループへの場所の提供、映画上映会、お料理講習会などの開催。また、えんがわハウスの2階でのえんがわ文庫（こども文庫）の開設。 ・ 地元での地区防災計画に基づく避難所開設訓練や防災訓練の継続的な実施 ・ もりはしコミュニティ協議会の活動サポート
協力組織	赤い羽根福祉基金
会員の皆さんへ	被災地や被災者に常総での取り組みを参考に地元での復興に役に立てていただけるような拠点づくりに努めます。ハウスの見学や場を活用した企画も募集しています。

事業名	常総市以外の水害被災地支援
新規／拡充／継続	継続拡大
取り組む地域の課題や社会的背景	常総での経験を全国の水害被害地へ発信、また県内外の被災地の地元支援団体との交流を行い今後の水害への備えや被災した後の復興のため現在取り組んでいる空き家改修やコミュニティの再建に役立つ情報をまとめ発信していくことが必要
対 象	全国の災害支援団体 被災されたことで空き家の活用やコミュニティの再建を求めている地域や方々
事業内容	・ 茨城県 DWAT（災害時福祉職派遣）の協定締結団体としての防災研修への参加協力 ・ 県域 NPO センターとして、福祉系 NPO や企業等との災害時連携に関する活動 ・ 2019 年台風 19 号で被災した県北被災地や全国の被災地との復興に関する情報交換 ・ 常総水害に関する冊子の送付や報告者の派遣 ・ 空き家改修、活用に関する他地域との情報交換（オンライン）実施

	・ 常総市内の空き家での DIY 改修の実践 ・ 多言語での防災ガイドと被災した際のガイドの作成
協力組織	日本財団、ジャパンソサイヤティ
会員の皆さんへ	常総の水害対応とその後の復興や自主防災の取り組みに関して出前防災講座、出前避難所開設訓練など行っていますので、防災の活動を企画される際にはお声かけください。

事業名	生活困窮者や生活に課題がある人の支援
新規／拡充／継続	一部新規
取り組む地域の課題や社会的背景	新型コロナウイルスの感染爆発で、経済、雇用、生活、教育など様々な分野に影響している。特に人との接触機会を減らすことは要配慮者の孤立を深め、仕事や住まいを失うなど困窮者増加を引き起こしている。これら、孤立と失業という問題にどのような対応ができるのかについても検討を行い、できる活動を行っていきます。
対 象	生活困窮者、自力での移動や生活に課題がある方、引きこもりや虐待をうけている子ども
事業内容	・ 助け合い組織であるジュントス移動支援の継続 ・ 常総市より受託した生活支援コーディネーターとしての相談対応と介護予防 ・ 食を通じた居場所づくりや見守りの活動 ・ 仕事や住まいを失った生活困窮者に住み込みで働ける場の提供や食や農業を学べる場と作業プログラムをつくる ・ 必要に応じて就労準備支援事業、家計改善支援事業にて対応
協力組織	中央共同募金会、常総市役所、地域の福祉関係者、外国人当事者支援グループなど
会員の皆さんへ	長引く新型コロナウイルス感染と感染予防対策に伴い収入の減、あるいは失業する人や収入減により住まいを失う人が増える中、制度で対応しながら独自事業として自立して安定した生活ができるよう支援サポートしていきます。

部門名	セーフティーネットのインキュベーション事業（外国にルーツのある居住者が、文化的で人間らしい生活を送っていくための環境づくり）
活動方針	・ 外国ルーツの子どもが、成人するまで適切な教育を受けることのできる環境づくり ・ 外国人住民が、適切な社会保障を受けることのできるための環境づくり ・ 外国人住民が、地域の一員として参加し、支え合って生活していくことのできる環境づくり

新規／拡充／継続	継続	事業名	多文化保育園「はじめのいっぽ保育園」
取り組む地域の課題や社会的背景	待機児童の増大、就学前準備（日本語指導、生活指導）の不足	対 象	乳幼児
事業内容	多文化保育園「はじめのいっぽ」の保育内容を充実させます。 ・ スタッフの専門性の向上：外国人スタッフの保育の専門性を高めるため、家庭的保育者認定研修の受講を進めます。 ・ 保育内容の充実 ① 保育活動内で日本語学習を推進し、子どもたちの日本語を伸ばしていきます。 ② 課外活動（植物栽培、体験活動等）を取り入れ、地域と関わりながら、特色ある保育園を運営していきます。 ・ 保育園の周知：上記２点に力を入れながら、紹介ビデオの作成等を通じて保育園の周知に努めます。そして、国籍に限らず新規入園児の確保に努め、多様な文化が共存する「多文化保育園」としての質を高めていきます。		
会員の皆さんへ	保育園を開所して４年目となりました。少しずつ当園のことを地域に周知しつつあります。しかし、外国人家庭をはじめ、子どもや家族が抱える課題にすべて応えられていないことも事実です。子どもだけではなく、家族、地域に対する教育・福祉といった分野横断的・包括的なサポートを行うためにも皆様のご支援・ご協力が必要です。 一つ一つ、課題を丁寧に解決し、多文化共生社会・地域共生社会の実現に向けて、引き続き連携して取り組んでいけたらと思います。		

新規／拡充／継続	継続	事業名	学童保育「はじめのいっぽアカデミア」
取り組む地域の課題や社会的背景	外国ルーツの子どもが円滑な学校生活を送れるため、支援が必要である。	対 象	小学生
事業内容	宿題フォローや日本語指導、社会体験の場といった、放課後の居場所提供		
会員の皆さんへ	４月から新たに３名の仲間を迎え、毎日１０名弱の小学生が元気に通っています。近隣の高校生がボランティアに来て、丁寧に勉強を教えてくれています。昨年度までは助成金の補助がありましたが、今年度からは完全に利用者からの財源のみに頼らざるを得ないためにスタッフの増員が難しく、入会の問い合わせのすべてに対応できていない状態です。地域のボランティアさんへ本活動を知っていただき、みんなで子どもを見守り育てていく開かれた学童を目指していきたいと思っています。		

新規／拡充／継続	拡充	事業名	プレスクール プレクラス
取り組む地域の課題や社会的背景	外国籍の子は、就園経験のないまま入学したり、突然転入してくるため、受け入れる学校も、何も分からず就学する当事者も困り感が強く、円滑に就学するための事前指導の体制づくりが急務であること	対 象	就学前の子
協力組織	常総市教育委員会	事業内容	就学前の子供に対し、就学前の生活指導・日本語指導を行う。
会員の皆さんへ	茨城県には、外国ルーツの子どもに対する就学前の指導体制が他の集住県と比較すると大幅な遅れがあります。まずはこの常総市にモデルをつくるため、数年がかりで市教委に働きかけ続け、令和 4 年度から市教委がプレクラスを行う方向で検討する段階まで来ることができました。学校現場の管理職や有識者と共に会議体を組織し、実現に向けて一層取り組んでまいります。		

新規／拡充／継続	継続	事業名	グローバル・サポート事業
取り組む地域の課題や社会的背景	県内の公立学校における外国ルーツの児童生徒の受け入れ体制の不足	対 象	公立小中高
協力組織	茨城県教育委員会（委託元）、大学等	事業内容	県内公立学校や教育委員会への通訳・翻訳サポート、日本語指導者の派遣、相談対応
会員の皆さんへ	当事業は今年で 3 年目となり、県内各地から新規の相談が随時来ています。一件ずつ丁寧に対応しながら事例を蓄積して具体的な課題を浮き彫りにし、年度末に集大成として実施が予定されているフォーラムで発表できるように努めていきたいと思っています。また、今年度は、筑波大の専門家とも協力して研修動画の作成に取り組み、産官学の連携によって日本語指導の充実を図ります。		

新規／拡充／継続	継続	事業名	茨城県内の外国人のためのセーフティーネットワーク構築事業
取り組む地域の課題や社会的背景	新型コロナウイルス感染下において、収入の減少からローンが払えずに家を手放したり、今まで従事してきた仕事を続けられず日本語を学んで再就職の道を目指したり、子どもの就学に影響が出るなど、様々な困りごとや相談を受けています。	対 象	外国人住民
協力組織	三菱財団、中央共同募金会		
事業内容	外国人の様々な困りごとや相談に対応し、必要な情報を多言語化して発信します。また、相談を受け付けるだけでなく、教会やモスクを取っ掛かりとし、行政が把握していない外国人コミュニティなどを訪問して県内の外国人コミュニティマップを作成し、当会で作成した社会資源ガイド等を配布、活用しながらそれぞれの困りごとを顕在化させます。関係機関へ繋いだり、情報提供したりすることによって、よりスムーズに外国人の生活を支援する体制を整えます。		

会員の皆さんへ	今までも外国人住人の相談対応は無償で行ってきましたが、今後も件数が増えていく見込みのため、人件費などの財源が必要です。また県内の様々な外国人支援組織と連携を深めていきます。資金面、情報面でのサポートをお願いします。
----------------	---

新規／拡充／継続	新規	事業名	家なき人と共に暮らし未来を耕すための多文化共同住宅と農園の開設
取り組む地域の課題や社会的背景	生活保護も受けられない困窮者や在留資格がなく就労も認められない外国人住民、独居生活が困難な高齢者や障がい者は公的制度の狭間にいます。必要な福祉が受けられず、路上や病院や刑務所以外に行先がないという課題に対して制度外の居住福祉サービスを新たに実践していきます。		
対 象	生活困窮者、サポートを必要とする独居の人		
協力組織	中央共同募金会、県内福祉機関、市町村、児相、保健所、保健センター、地域包括支援センター、保育所、養護施設、高齢者施設など		
事業内容	・ 住み込みで働ける場、アパート契約が困難な人でも入居できる家を新たに作る。 ・ 生活の場と農園をつくり、共同生活と生産活動を軌道にのせる。 ・ 食や農業を学べる場と作業プログラムをつくる。 ・ えんがわハウスやカフェと連動させ、高齢者が昼も夜も誰かと共に過ごせる状況をつくる。		
会員の皆さんへ	本事業は、生活保護も受けられない困窮者や在留資格がない外国人住民、独居生活が困難な高齢者や障がい者が必要な福祉が受けられず、路上や病院や刑務所以外に行先がないという課題に対し、空き家を改修したグループハウスで住まいをつくり、農や食で仕事をつくり、共に地域で暮らす実践を通じて空き家の福祉転用と居住福祉の具体的モデルをつくり発信します。農作業や家の改修を手伝っていただける方はぜひ常総にお越し下さい。		

新規／拡充／継続	継続	事業名	在住外国人への定住化支援事業
取り組む地域の課題や社会的背景	常総市では水害後外国籍住民の持ち家比率が高まるなど定住化が進んでいますが、ゴミ処理、地域防災への参加、各種制度の理解、市政への参画などが課題になっています。		
対 象	外国籍住人（ピアサポーター）		
協力組織	茨城県提案型共助社会づくり支援事業助成金、三菱財団、ジャパンソサヤティ、外国人雇用企業、入管、自治体など		
事業内容	・ ピアサポーター養成講座の実施とサポーターのチームづくり ・ 外国人雇用事業所などと連携した生活ガイダンスの実施 ・ ピアサポーターによる、日本で生活していくうえで重要なテーマを扱った動画配信 ・ 外国籍住民が参画する地域防災訓練の実施、多言語の防災資料作成 ・ 県内外国籍住民当事者組織リストの作成と多言語支援情報の共有		
会員の皆さんへ	最終的には、ピアサポーターが集まって常総版の外国人当事者組織の設立が目標です。コモンズが作成している多文化関連冊子、動画などを多くの方に知ってもらう活動に協力して下さい。外国籍の方を雇っている企業、教会やモスクなどの情報を提供いただけると助かります。		

部門名	ネットワーク化事業	
活動方針	コロナ禍が長期化する中、生活困窮の市民などを支える地域のセーフティネットの様々な担い手同士をつなぎ、持続可能な地域づくりにつなげます。	
新規／拡充／継続	継続	拡充
事業名	子ども食堂サポートセンターいばらき	NPO マナビヤ
取り組む地域の課題や社会的背景	・ 長期化するコロナ禍で、テイクアウト形式の子ども食堂、フードパントリーや宅食など新たな活動に取り組み、居場所を継続させている子ども食堂と、そうでないところがあります。 ・ コロナ禍でも子ども食堂を新たに始めたいという市民、コロナ禍だからこそ子ども食堂をサポートしたいという市民や団体のニーズは少なくありません。	・ コロナ禍の長期化で、新たに生活困窮となった市民も含め、対応する地域の各福祉的相談機関が官民連携する必要があります。 ・ 昨年度作成した『リンク ～茨城のセーフティネットづくりに関わる団体ブックレット～』の活用を促す必要があります。
対 象	子ども食堂など子どもの居場所、子ども食堂などを支えたい、または始めたい市民や団体など	県内各地域のセーフティネットの担い手
事業内容	① 子ども食堂応援事業運営会議を継続開催し、各地の子ども食堂リーダー同士がつながり、協議する機会を設けます。 ② コロナ禍での子ども食堂の実態調査を実施します。またモデル的子ども食堂のヒアリングと訪問レポートの発信を継続します。 ③ 特設サイトを通じて、子ども食堂などの設立、運営、支援に関する情報を継続的に発信します。 ④ 専用電話回線を設け、子ども食堂に関する総合相談窓口を継続運営します。 ⑤ 子ども食堂スタートセミナーを複数箇所で開催します。オンライン参加も可能とします。 ⑥ 子ども食堂ネットワーク会合を各地で継続開催し、全国動向やノウハウを共有します。 ⑦ 企業や農業関係者などに子ども食堂などに対する食品寄贈依頼を行い、寄贈調整を実施します。 ⑧ いばらき子ども食堂応援募金への寄付募集を継続的に実施します。(コモンズ独自事業) ⑨ 企業などで培った専門的な能力や経験を活かしたボランティアの、子ども食堂版プロボノ・マッチングを進めます。	リンクに掲載した団体などによる事例、ノウハウ、アイデア、経験などを共有する交流会を継続的に開催し、セーフティネットの担い手同士がつながることができる機会を継続的に設けます。
協力組織	県内各地の子ども食堂、社会福祉協議会、企業、JA、生産者、フードバンク茨城など	リンク掲載団体、社会福祉協議会、生活困窮者自立支援制度の相談対応窓口など
会員の皆さんへ	同事業は3年目となり、多くの実績とノウハウが生まれました。県内には約90の子ども食堂があり、それぞれユニークな取り組みを行っています。食を通じた地域の居場所づくり、支援活動にご参画ください。食品、ボランティア、寄付の仲介も行います。	今年度は様々な福祉的機関が集う機会を多く設けます。一般参加も可能ですので、積極的に参加し、自らの活動に活かしたり、これらの支援団体の活動を支えてください。

部門名	担い手の育成事業	
活動方針	会計サポートなどを通じて、セーフティネットづくりに取り組む担い手の組織基盤強化と信頼性向上につなげます。	
新規／拡充／継続	継続	継続
事業名	会計サポート事業	NPO 法人会計基準協議会事務局運営
取り組む地域の課題や社会的背景	・ NPO の会計力を向上させ、運営の透明性、市民の信頼を高めるには、実際に帳簿などを見ながら個別の伴走サポートを拡充する必要があります。 ・ 市民活動の成果の発信、評価が問われている中、現在は社会から期待されるアカウンタビリティのレベルに十分達しているとは言い難い状況です。	民間基準として、全国の市民活動支援者、会計専門家などと協議して 2010 年に策定した NPO 法人会計基準をさらに普及させる必要があります。寄付やボランティアなどを通じて市民から支えられる組織として、NPO 法人の明朗な会計と情報開示、アカウンタビリティの向上につなげる必要があります。
対 象	会計事務などに苦勞する NPO	全国の NPO、NPO 会計支援者
事業内容	・ 「市民活動の会計セミナー」を複数個所で開催し、NPO 法人会計基準の普及を図ります。 ・ 新たな会計サポートのニーズを掘り起こします。 ・ NPO 法人会計基準に準拠したソリマチの会計ソフト「会計王」の代行販売及び入力サポートを継続します。 ・ NPO 会計サポーターの育成に努めます。	・ NPO 会計オンライン・セミナーを継続開催し、NPO 法人会計基準のさらなる普及を図ります。 ・ NPO 会計サポート・コミュニティを継続的に運営し、会計支援者同士がつながれる機会をつくります。 ・ 寄付の対価性に関して協議する機会を設けます。
協力組織	県内市町村の市民活動支援センター、NPO の所轄庁業務権限移譲を受けている自治体担当職員	全国の NPO、NPO 会計支援者など
会員の皆さんへ	会計は組織の要です。会計事務を円滑に実施し、多くの市民から信頼され、寄付や会費などの応援が受けられるようにしましょう。コモンズもできる限りサポートします。	

部門名	活動資源の仲介事業					
活動方針	セーフティネットの維持・拡充を目的とした寄付募集及び助成事業を実施することで、コロナ禍で地域のセーフティネットを支える NPO の存在の可視化と、寄付を通じた市民参加につなげる。					
新規／拡充／継続	継続		継続			
事業名	誰かのために募金 ～新型コロナウィルスの影響によって生活困難な茨城県民を支える活動を応援～		花王・ハートポケット倶楽部地域助成 ～地域の居場所の継続・発信助成～			
取り組む地域の課題や社会的背景	・ コロナ禍が長期化する中、生活困難な市民や労働者を支えてきた NPO などによるセーフティネットに対し、これまで以上にその役割が期待されています。 ・ このような状況の中、地域のために何か行動を起こしたいと、企業も含め、新たな公益的活動も生まれてきています。		・ コロナ禍で、福祉的な地域の居場所は、これまで以上に必要とされています。 ・ 居場所に来ている人のつながりをオンラインで維持しようとしたり、県外の先進事例とつながる動きもあります。			
対 象	セーフティネットの担い手である NPO		コロナ禍でもつながりを絶やさず、地域の居場所を継続して運営する団体			
事業内容	「誰かのために募金」の寄付募集を継続実施し、次なる助成と新たなセーフティネットの担い手の掘り起こしにつなげます。同募金への寄付つき商品の開発・販売も促進します。		2013 年度から、花王・ハートポケット倶楽部の皆様のご寄付を原資に、助成活動を継続することができました。過去 2 年は、地域の居場所を中心に助成しています。今年度も、地域の福祉的居場所の運営の継続や情報発信を支え、自主的な運営ができるようにサポートします。			
			年度	団体名	活動名	活動内容
			2019	認定 NPO 法人 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい	オレンジサロン事業	子どもの頃に虐待を受けた市民同士の交流サロン
				NPO 法人 キドックス	引きこもりや不登校の子ども若者たちが居場所へアクセスしやすくなるための HP リニューアル	ひきこもり当事者参加型の、保護犬を介した若者自立支援プログラムのウェブサイト更新
			2020	フリースクール こどもの SONORA	学校に馴染めない子どもたちの居場所の創出につなげるためのプレーパークづくり	県内数カ所でのプレーパーク設立、学校に対する子どもの思いや課題の聞き取り調査、安心して過ごせる茨城県居場所マップ作製
				NPO 法人 つながる茨城	だれでも食堂 in 若宮団地	県営団地の高齢者や外国人などを対象とした、テイクアウト形式の食を通じた居場所づくり
協力組織	いばらき未来基金運営委員所属組織、地域メディアなど		花王・ハートポケット倶楽部など			
会員の皆さんへ	困難な時だからこそ、必要な活動があります。また、その行動に注目し、応援してくれる人も必ずいます。自分たちが支えている当事者が抱える課題を発信し、そのための活動を企画・提案してください。コロナ禍を契機に、一緒に茨城に寄付社会を根付かせましょう。					